

# 目次

1	巻頭言	尾池 和夫
2	連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第10回	ノーベル賞の授賞式に出る・・・山極 壽一
4	連載「野生動物を遺伝子から見る」第1回	広い世界にあこがれて・・・村山 美穂
6	連載「生態学者が往く」第6回	インド・カジランガの旅・・・湯本 貴和
8	連載「自然と芸術」第10回	ニホンザルを描く・・・小野塚 佳代
10	連載「野生動物のおなかの中の秘密」第1回	野生動物の「うちの秘密」・・・牛田 一成
12	連載「大型類人猿探訪」第13回チンパンジー研究からヒトの社会問題をかんがえる・・・林 美里	
14	連載「サルの住む森」第13回(最終回)	運命の出会い・・・松田 一希
16	連載「ウマ学ことはじめ」第13回 ドローンが解明するウマの群れのルール・・・井上 漱太・平田 聡	
18	連載「海外生息地調査」第13回	ザンジバルの休日・・・伊谷 原一
20	連載「環境教育実践」第13回	スキーで探した笹ヶ峰のニホンザル・・・赤見 理恵
22	連載「動物園・水族館だより」第4回 平成30年度東部ニューギニア戦没者遺骨収集派遣参加レポート・・・高野 智	
24	ウマにタッチパネルーウマの比較認知科学ことはじめー	友永 雅己
26	人間の知恵を自然との共生のために～環境経済学の役割～	細田 衛士
28	ご寄附のお願い・イベントのご案内	

## ■表紙の言葉

ジェジェと名づけた若い男性のチンパンジーである。ゆっくりとこちらのほうに近づいてくる。そもそもここは人が通る道だ。このギニアのボツソウの群れを、わたしは 1986 年から毎年観察してきた。彼は 1997 年 12 月生まれで、母親のジレが推定 40 歳のときに産んだ。写真は 2010 年 12 月の撮影である。そのときジレには 3 人の子どもがいた。ジェジェは 14 歳で、ちょうど群れの若いリーダーになったばかりだった。妹のジョヤ 6 歳半 (2004 年 2 月 9 日 14:00 生まれ) と、さらに幼い妹のジョドアモン (2009 年 11 月 18 日生まれ) がいた。「人づけ」といって観察者の存在にすっかり慣れている。したがって生年月日もわかるし、まれだが誕生の瞬間まで見ることもできる。

(撮影：アヌップ・シャー)



松沢 哲郎 まつざわ てつろう

京都大学高等研究院・特別教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のコーディネーター。公益財団法人日本モンキーセンター・所長。中部大学創発学術院・特別招聘教授。京都造形芸術大学文明哲学研究所・所長。

# 巻頭言

## 尾池 和夫 (京都造形芸術大学)

かつて国際高等研究所で主宰していた天地人研究会の成果を『天地人—三才の世界』という本にまとめたことがあった。それ以来物事を「天地人」の眼で観察する癖が残った。例えば、俳句を天地人に分類する。芭蕉の句では、〈荒海や佐渡に横たふ天の河〉は天、〈古池や蛙飛び込む水の音〉は地、〈旅に病で夢は枯野をかけ廻る〉は人の句という調子である。

ニュースも「天」のニュース、「地」のニュース、「人」のニュースと分類しながら見る。ただ最近の「人」のニュースは、許しがたいテロのこと、痛ましい交通事故のことなど、ここで論じる気にはならないものが多い。

「天」の部では何と言っても花山天文台の現在と未来のニュースがうれしい。私も花山宇宙文化財団設立の記者会見に出席して、花山天文台を応援する話をした。記者会見には多くのTVカメラも新聞記者も出席してくれた。株式会社タダノの多田野宏一社長が 10 年間、毎年 1000 万円の寄附をしてくれるというニュースである。

「地」の部に分類した物の中には、「ザッツ・京大」4月に、いつもの山極壽一総長の笑顔とともに、「地球社会の調和ある共存」を基本理念とする京都大学のニュースがあった。「動物園は研究フィールド！—動物園に生きる京都大学の知を探せ！」という記事が載った。京都大学野生動物研究センターの特任

教授で同時に京都市動物園の生き物・学び・研究センター長を務める田中正之さんが登場する。霊長類研究所のことも紹介されている。霊長類の勉強時間に潜入の記事がある。霊長類研究所のチンパンジー、アイが得意とする学習システムである。

「人」では、「芸術とは何か、人間とは何か」という課題を掲げる京都造形芸術大学文明哲学研究所を中心に、キャラクターデザイン学科など多くの学科が協力して「Arts and Apes—ヒト以外のヒト科の作品展—」というのを、2018 年 12 月 11 日から大学の間人館エントランスラウンジで開催したことが大きなニュースであった。出品作家には、チンパンジーのアイ、サラ、パン、ポポ、パル、クロエほか、ボノボ、ゴリラ、オランウータンもいて、多くの観客が絵を楽しんでくれた。これを巡回展にしようという方針が決まり、次はどこで開催するかということが今、懸命に検討されている。



尾池 和夫  
おいけ かずお

京都造形芸術大学学長、公益財団法人日本モンキーセンター理事長、静岡県立学校法人理事長。東京で生まれ高知で育った。1963 年京都大学卒業後、京都大学助手、助教授、教授を経て第 24 代京都大学総長、国際高等研究所所長、2013 年 4 月から京都造形芸術大学学長。著書に「新版活動期に入った地震列島」「日本列島の巨大地震」「四季の地球科学」「2038 年南海トラフの巨大地震」「あっ！ 地球が・・・」「句集 瓢鮎図」など。